

# ITU-R SG1関連会合の結果概要について

## (1) 会合の概要

日程・場所	: 2021年5月25日(火)～6月3日(木) Virtual meeting (GoTo Webinar)
検討事項	: ワイヤレス電力伝送(WPT)、テラヘルツデバイスに関する勧告/報告書等について審議。
参加者	: 米、英、蘭、露、中、韓等から約370名が参加。日本から総務省、民間企業等計30名が参加。

## (2) 主な結果

### (1) ワイヤレス電力伝送(WPT)に関する検討【電波環境課】

- Beam(空間伝送型)WPT周波数(日本が制度化予定の周波数含む)のガイダンスに関する新勧告(ITU-R SM.[WPT.BEAM.FREQ])について、「作業文書」から「新勧告案」に昇格させるよう、日本とブラジル(※1)が共同で提案。中国から議論が不十分との懸念が示されたが、米国、露国から昇格を支持する意見があり、現時点の文書の成熟度も考慮し、「新勧告草案」とすることを決定。次回WP1A会合(11月)で本草案を議論し、次回SG1会合での「新勧告案」の採択を目指す。
- Beam WPTの影響調査に関するITU-R報告(SM.[WPT.BEAM.IMPACTS])について、「作業文書」から「新報告案」へ昇格させるよう、日本が提案。英国、オランダ、中国からの感度抑圧効果や干渉に関する懸念に対応すべきとの提案を受け、関連するWPへのリエゾン文書の作成を決定。中国の懸念は残ったが、参加国から一定の理解を得たことから「作業文書」から「新報告草案」とすることを決定。次回WP1A会合(11月予定)にて本草案を再度議論し、次回SG1会合での「新報告案」の承認を目指す。

### (2) テラヘルツ帯の能動業務に関する検討【基幹通信室】

- ITU-R報告SM.2352(275-3000GHzにおける能動業務の技術動向)について、ウォークスルーキャニングシステム(※2)の仕様検討のため衣服等の透過・反射特性に関する情報を求めるリエゾン文書を前回会合においてWP3J、3K及び3Mに送付したものの、当該WPでは該当文書が存在せず、非ITU系の論文で当該特性が示されている旨の返答リエゾン文書を踏まえ、日本から衣類や金属、危険物の透過・反射特性に関する論文を提示するとともに、当該論文から得られる考察結果(テラヘルツ帯の利用により金属、危険物を識別できる旨)をSM.2352の改定作業文書に反映することを提案した。
- SM.2352の改定作業を進めるために日本から提案した衣類や金属、危険物の透過・反射特性について、米国等から、報告への反映に当たっては、SG3に非ITU系の論文情報に関する見解を求める必要があるとの意見を踏まえ、SM.2352に使用することについて見解を求めるリエゾン文書がWP3J、3K及び3M宛に発出された。

※1 議論の進展を目指し、WP1A議長(ブラジル)と事前調整した上で提案。

※2 衣服の下に隠れた金属・非金属の危険物を短時間で検知するシステム。日本からの提案により、当該システムの仕様をSM.2352に追加する検討が令和元年5月のWP1A会合からなされている。

## (3) 今後のスケジュール

2021年11月3日～11月10日: WP1B・1C、～11月12日: WP1A(オンライン開催)